



花園大学 後援会事務局 〒604-8456 京都市中京区西ノ京壺ノ内町 8-1 Tel.075-279-3630 (直通) Fax.075-823-2412

# 後援会会長就任のご挨拶

会長 後藤 宏道



後援会会員の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年度後援会会長の職を務めさせていただくこととなりました。もとより浅学非才の身ではありますが、母校の為、在学生の皆様のために理事の皆様や事務局と協力しまして後援会活動を進めて参る所存であります。

本年五月より、新型コロナウイルスの扱いも2類相当から5類に変更になり、キャンパス内は一気にコロナ前かのように活気が戻って参りました。現在の四回生は入学時から制限の中でキャンパスライフでありました。

このコロナ禍の制限で十分な活動ができないまま卒業された方々の事を思うと残念でなりません。

そのような中昨年度は創立150周年を迎え「返照館」「楽道館」「人工芝グラウンド」が完成し、学内WiFi環境の整備強化や各館のトイレ改修工事も行われ、より快適になりました。クラブ・サークル・ボランティア活動も以前のような活動が戻って参りました。今年度は野球部が京滋大学野球春季リーグで十三季(七年)

ぶりに優勝し、二回目の全日本大学野球選手権大会への出場を果たしたことは私共卒業生にとってもたいへん嬉しい事でありました。大学選手権出場に際しまして寄付を頂戴いたしました会員皆様に厚く御礼を申し上げます。その他にも活動する個人・団体にも「課外活動援助金」を支給しその活動を支援して参ります。更に「後援会温玉ごはん」と「マイナス1000円朝食」の『学生支援活動』も後援会理事の皆様や学生さん方の意見を取り入れ、より良い形に改善しながら行って参ります。

後援会の会則には「建学の精神に基づき大学の事業を後援し、併せて在学生の教育に資する事を目的とし、目的を達成する為に必要な事業を行う」とあります。大学職員・後援会役員と事務局が一丸となって在学生がより良い学生生活を送れますよう支援して参ります。会員の皆様には、引き続きご協力頂きますようお願い申し上げます。

## 新役員紹介

2023年度の役員は次のとおり決定いたしました。任期は1年です。

- 会長 後藤 宏道様
- 副会長 長島 義堂様
- 幹事 小坂 雅俊様
- 川井 彰様

会計監事は次の2名です。任期は1年です。

- 監事 松村 隆志様
- 小川 里美様

理事総数は16名です。



# 学生にエールを送ろう

花園大学学長 磯田 文雄



## はじめての夏休み

日頃、花園大学の教育研究の充実発展のためにご支援いただいておりますことを厚くお礼申し上げます。おかげさまで本年度前期の授業もごおわりなく終了いたしました。

これから学生たちは、夏の合宿に、一月月の海外留学に、あるいは卒論の執筆に向かうなどそれぞれの目標と想いを胸に活動を広げていくものと考えています。コロナの制限をまったく受けないはじめての夏休みです。学生さんには、思う存分この休みを生かしていただきたいと願っています。

## にぎやかな学生の登校風景

本年度の花園大学入学者数は三百二十人で、昨年度の三百八人より十二人増えました。多くの大学が入学者数を減少させる中で、花園大学は入学者数を増やすことができました。このことは、後援会、同窓会、高等学校、そして何よりも、本学を選んでいただいた新入生及び保護者の皆様のおかげと深く感謝しております。

毎朝、私は正門に立って学生さんに挨拶していますが、学生さんの登校風景が一変しました。にぎやかなのです。いつも仲良しグループでお

しゃべりながら登校する学生、クラブの用具を携え統一された服装で力強く歩む強化クラブの学生、二、三人でとても大切なことを他人に聞かれないように顔を近づけて話している風の学生、もちろん孤高を保ち一人さっそうと歩く学生、学生それぞれですが、勢いがあり、のびやかな足取りが聞こえてきます。

## 学生が支える大学の教育研究

二十一年ノーベル化学賞を受賞した名古屋大学の野依良治先生は、大学の教育研究に対する学生の貢献は極めて大きいと語っています。様々な専門的な研究所では膨大な予算と装置を使って研究を進めているのに、なぜ予算規模でも装置でもはるかに見劣りする大学からノーベル賞受賞者が輩出するのか、その答えは学生がいるからです。

学生は新しい息吹を大学に持ち込みます。新鮮な感性、既成概念を超えた考え、位相の異なる視座、そして経験がないという経験、これらのものが大学において既存の価値観や知識と混じり合い、融合し、まったく新たな知識や法則として生まれ変わります。学生がいるからこそ新たな学術の創造があるのです。研究所には、学生のような外部からの新鮮な挑戦者が現れないから創造性において欠けることがあるのです。

毎年新たな学生が入学してきます。今年の学生は昨年の学生とは違います。大学における教育活動とは、毎年、毎年、訪れる新たな若者たちの挑戦に応えることです。同じ若者は一人もいません。したがって、同じ対応はできません。一人ひとりの学生に向き合い、ともに時間を過ごす中で教育が展開されます。教育を豊かにし、革新していくのは、実は学生なのです。

私が正門で学生に挨拶している想いの一つは感謝です。大学に来てくれてありがとうございます。花園大学の今があるのは学生諸君のおかげです。心から学生諸君にエールを送りたい。







日頃より花園大学硬式野球部活動に對し、ご理解とご協力を賜り御礼申し上げます。今回の第72回全日本大学野球選手権大会出場におきましては、多大なご支援を頂戴しましたことに感謝申し上げます。

私は本年3月1日より花園大学に勤務し、硬式野球部監督に就任いたしました川崎克巳でございます。本学就任前は大阪府立高校教諭として39年間勤務し、島上大冠（現大冠）、門真西、高槻北高校で硬式野球部の監督を務めて参りました。

今回、就任3カ月で全国大会出場を勝ち取る事が出来ましたのは、3月に行った春季キャンプが大きかったと思っております。8泊9日寝食を共にすることで選手一人ひとりの個性や考え方を知ら

とが出来ました。就任後間もない時期でしたので、選手は私の野球指導について疑心暗鬼な部分もあったのではないのでしょうか。私は高校と大学で指導方針に大きな違いはないと考えております。大切なことは「凡事徹底」。何でもないことを徹底してやりぬくことで大きなことが成しえる。これは硬式野球のみならず選手の勉強や学生生活全てに当てはまると考えております。この考えを伝え、実践することでキャンプ後はチームがまとまり、春季リーグ戦では前半のピンチを守り抜き、終盤に得点する試合が続きました。全国大会一勝を成しえることは出来ませんでした。この経験が今後に大きく生きてくるものと信じております。この方針を軸に指導に当たって参ります。皆様の更なるご声援をよろしくお願い申し上げます。

京滋大学野球連盟代表の本学選手団は、6月4日の開会式にあわせて上京し、その後は都内で練習を重ねました。6月7日関西六大学代表の大阪商業大学と東京ドームで対戦しました。投手は奥田（4回生八幡商業高）・藤原（2回生水口高）・小林（2回生栗東高）と継投しました。一回に1点を先制され、その後五回、六回に失点しました。打線は七回に櫻田（3回生辰誠学園高）、岩田（4回生東山高）と連続ヒットで出塁し、植西（2回生京都国際高）の犠牲フライで1点を返しましたが7対1で敗れました。力の差を感じる残念な試合結果となりました。プロ野球が使用する東京ドームの独特な雰囲気



# — 2023年度公開講座 —

## 禅とところ

ご来場の皆さまの健康と安全の確保、また新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、2023年度の「禅とところ」は当面の間、一般の方（科目等履修生・聴講生を含む）の聴講をご遠慮いただく事にいたしました。なお、横田南嶺花園大学総長の講義のみ花園大学ホームページ (<https://www.hanazono.ac.jp>) からご視聴になれます。

パソコン画面より視聴する方法



下の⑤へ